

奨学生の保護者からのお手紙

■親に遠慮することなく・・・■

新築の住宅が全壊し、応急仮設住宅での生活を余儀なくされたこともあり、子どもたちの様子から将来に不安を抱いていることが感じ取れました。親に遠慮することなく、子どもたちには伸び伸びと学校生活を送ってほしいと願っていました。そんな時に、奨学金の案内があり、申込みをさせていただきました。おかげさまで、息子は高校に進学し、夢をあきらめることなく好きな野球を続け、甲子園を目指して努力しております。

■息子の将来のことを聞いてみたら・・・■

震災当時、家の事、将来の事で頭が一杯で、正直、息子の夢まで頭が回らず、後回しにしていた気がします。そんな時、奨学金の話聞いて、息子に将来のことを聞いてみたら、舞台照明をやりたいと言われました。そういう事に興味があるとは思わなかったのも、正直驚きましたが、息子は一度口にした事は、十分考えてから話す方なので、もうそれは決定だと私も夫も思いました。色々考えなければならぬ事はありましたが、震災で息子の夢をつぶしたくなかったのも、奨学金には本当に感謝しました。息子を応援するにも、はっきり言って、経済的に余裕がなければ、それも難しい事です。どうかこれからも色々な子どもたちが夢を追えるように、ご助力願います。

■顔こそ見えない多くの募金者に・・・■

本当に何もかも流されて何一つとして残っていなかった中からの生活が始まり、もう4年になります。おかげさまで、仮設住宅暮らしではありますが、子どもたちはどんどん成長し、他の被災しなかった子どもたちと同じレベルで勉強も生活も出来るようになりました。子どもに不安を与えることなく生活させてあげられるよう支援して頂いたおかげだと思っております。多くの募金者の方々の顔こそ見えませんが、心優しいお気持ちに感謝の気持ちでいっぱいです。

■進学を諦めかけている子どもたちに・・・■

津波により閑上（ゆりあげ）へ帰ることができず、先が見えない生活を送っていました。そんな中、息子の進学で、奨学金のお話をいただきました。私たちのように、被災して進学をあきらめてしまう、諦めかけている子どもたちに、この奨学金事業を継続していただければと思います。

■厳しい状況でのスタート・・・■

思えば、4年前、生活の立て直しを一番に考える中、息子も高校進学を希望し、厳しい状況でのスタートを切ったことが思い出されます。そのような中で、奨学金を受け、息子も不自由なく高校生活を送ることができています。復興の道のはまだまだ険しく、支援を望む方も多いと思います。これからも奨学金がそのような方たちの励みになればと思います。

■被災者にとっては・・・■

今も仮設住宅で暮らしています。私たち被災者にとっては、前進はまだこれからです。子どもたちの未来のためにも少しずつ一歩ずつ前に進んで行きたいと考えています。是非見守っていただけたら嬉しいです。

■一生離れていくことはない・・・■

皆様の善意は、精神的にも大変救われました。今後は、親子共々、力強く人生を全うし、心に余裕が生まれた際

は、視野を広げ、何かのお役に立つことが何よりの恩返しになるのではないかと考えております。背負ったものはあまりにも大きすぎたようですが、これは一生離れていくことはないものです。それを受け入れ、少しでも笑って前進していけるよう精進したいと考えております。

■毎日楽しく学校に通う姿が一番の心の支え・・・■

震災前、毎週家に来て子どもたちに英語を教えてくれていた大切な先生が、震災で亡くなってしまいました。その後、子どもたちは、学校に通えるようになっても、英語の教科書を開くことすらなくなり、何に対してもやる気がなくなり心配する毎日でした。震災の日、水の中を車で逃げている間も子どもたちの方がしっかりしていて、弱腰になっている私を励ましてくれてやっと逃げ切れた時のことを考え、子どもたち自身の心の葛藤を見守ることにしました。その後、奨学金の支援を受けられることになり、息子と色々と話し合っ、奨学金をどのように役立てるかを考えました。息子は、もう一度勉強のやり直しを決め、一から勉強をやり直しました。高校に入ってから、ますます自信を取り戻し、何に対しても一生懸命取り組む姿が見られるようになりました。何より明るくなって毎日楽しく学校に通う姿が、私にとって一番の心の支えです。家を建てて何年もしないでの震災で、住宅ローンを抱え、家を直すためのローンも抱えた中での奨学金は、息子にとっても我が家にとっても本当に感謝しきれないほどの贈りものでした。